淡路人形会館（仮称）を建設

伝統芸能の拠点として なないろ館周辺に建設

▲淡路人形会館完成イメージ図

現在大鳴門橋記念館内にある淡路人形浄瑠璃館を、福良港なないろ館周辺に移転し建設する「淡路人形会館（仮称）」の設計方針と建設場所が決まりました。

本年度末に着工予定

総事業費４億３０００万円、兵庫県が所有する駐車場用地に鉄筋コンクリート造４階建で、２０１１年（平成23年）３月の完成を目指し、本年度末に着工します。

建物の用途

１階部分は吹き抜け式の構造で、２階部分は２００席の客席と舞台、物販スペース、事務所、３・４階には練習場、楽屋を設けます。

東南海・南海地震などによる津波発生の際には、観光客等の「避難施設」として位置付けられており、２階部分以上が避難施設として利用可能な高さに設計されています。

建物の外観と内装

施設の外観は、淡路人形の頭（かしら）をイメージした形で、地場産業の瓦の特徴を生かした素材を、内装には「和」を意識した木材をそれぞれ取り入れ、現代的なデザインの中にも５００年の伝統と歴史を継承する拠点として、若い世代にも興味を持ってもらえるような施設を目指し、建設を進めていきます。

建設への期待

新会館の建設により、うずしお観潮船との相乗効果で観光客の滞在時間の延長を図り、福良港周辺の活性化につながることを期待しています。

▲バックステージツアーで舞台裏を案内する人形座員

問生涯学習文化振興課☎37・3020

淡路人形を継承する後継者団体

伝統芸能、淡路人形浄瑠璃を受け継ぐ団体による「淡路人形浄瑠璃後継者団体発表会」が７月19日、三原公民館で開催されました。この日は７団体が日ごろの練習の成果を披露。力強い演技に、観客は魅了され、今後の活躍に大きな期待が寄せられました。

▲「寿式三番叟」の一場面

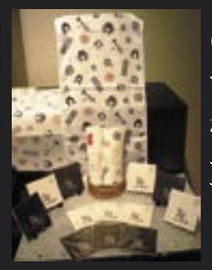
▲「戎舞」を演じる出演者

人形座がオリジナル商品を開発中

新会館への移転に向け、淡路人形座の座員が売店で扱う商品を開発中です。

両面おしゃれ手拭いタオル

表がガーゼ手拭いで裏がタオル地という使用感ばつぐんの商品。人形の頭（かしら）や三味線など人形座オリジナルのイラストが散りばめられ、プレゼントにもぴったりです！


▲両面おしゃれ手拭いタオル（近日発売）650円、大判油とり紙（発売中）400円

大判油とり紙

使いやすい大判サイズにこだわりました！シンプルなデザインが大人気です。

お弁当包み

発売後１３００枚を売り上げたヒット商品！柄は３種類。

▲お弁当包み（発売中）
1枚650円・2枚1,200円・3枚1,700円

問淡路人形座☎52・0260

沼島の神宮寺庭園を市指定文化財に

▲一幅の水墨画のような景観をみせる石組み

南あわじ市教育委員会は、5月22日、沼島の神宮寺庭園を市指定史跡名勝天然記念物に指定しました。

同庭園は今年1月に同寺の中川宜昭住職が指定を申請。傾斜地を利用し、岩盤を生かして構成された「築山式枯山水庭園（ていえん）」です。武家好みの力強い造形で、沼島特有の緑色片岩（へんがん）が巧みに配置されており、作庭当時の姿を残している、淡路島の歴史及び鑑賞上、学術上の価値が高い庭園として認められています。

指定書交付式

また、6月25日には指定書が交付され、中川住職は「離島にも中央文化に直結していた素晴らしい文化が残っていることを再確認して欲しい。これからも地方文化を守っていきたい」と話していました。

▲指定書の交付を受ける中川住職（左）

神戸大学大学院 国際文化学研究科との連携交流

▲協定書に調印した中田勝久市長と水田恭平国際文化学研究科長（左から2人目）

南あわじ市は、神戸大学大学院国際文化学研究科と6月26日、「連携・交流に関する協定」を結びました。

高度な専門の研究を進める大学と淡路人形浄瑠璃をはじめ伝統ある地域文化を育んできた南あわじ市が、連携して地域の活性化や課題に向けて共同で取り組みます。

大学院生による調査研究や市民との交流を通して、これまでにない視点から、新たな発想や課題解決策が生まれ、地域興しと魅力発信につなげたいと考えています。

11月には、国内外の研究者を招いて市内で開催する「淡路人形浄瑠璃に関する国際シンポジウム」にも同大学から参加協力をいただきます。

また、「わんぱく子ども映画祭」応募作品の講評協力や、短期留学生の市への訪問、交流なども大学と進めていきます。

社会を明るくする運動

全ての犯罪や非行の防止を訴える「社会を明るくする運動（法務省主唱）」が7月4日、シーパで行われました。

この取り組みは、地域住民の有志の活動が原点で今年で59回目。安全で安心して暮らせる地域社会づくりを目指し、非行少年の更生に取り組む保護司会や更生保護女性会などが中心となり、毎年実施しています。

この日の啓発には、津井幼稚園の園児11人も参加。警察官の制服姿に扮して、訪れた買い物客にごみ袋などの啓発物資を配りました。

▲啓発用品を手渡す園児

▲啓発用品を手渡す園児

手作りの淡路人形かしらを寄贈

瀬川茂夫さん（淡路市志筑）

▲淡路人形のかしらを寄贈した瀬川さん

瀬川さんは、長年地元の木偶（でく）づくり教室に通い、人形のかしらを制作。師匠の故作本峰雲（ほううん）さん（鳴門市）からは「煌雲（こううん）」の名をもらい制作活動に励まれました。